

大成建設設計本部3年次デザイン研修

□□□□写真館

00420409 藤原稔





concept

自然に対峙する姿勢  
自然に同調しようという意思

□□氏の作品から、この矛盾ともいべきものが感じられた

この矛盾を表現し  
□□氏の世界を表現することを試みた

面により風景を切断し、それを連続させることで断片化された自然のシーケンスをつくり出す

面と面との間に出来たスリットからは  
自然のディテールしか伺うことが出来ない

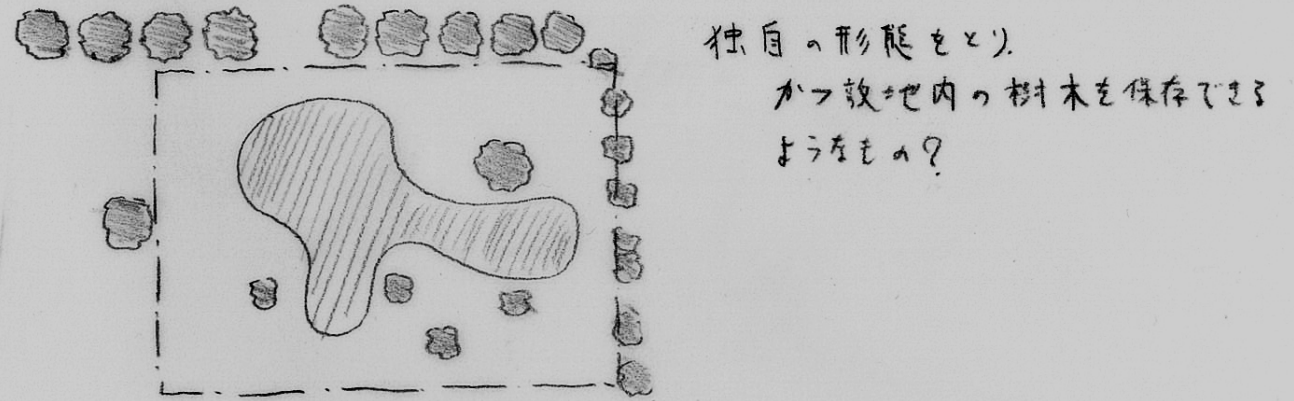
そこで感じられるのは、生き生きとした素材感をもつ生の自然である

周囲を排し、  
あくまで自己と自然との関係を追い求める□□氏を感じるための空間

image

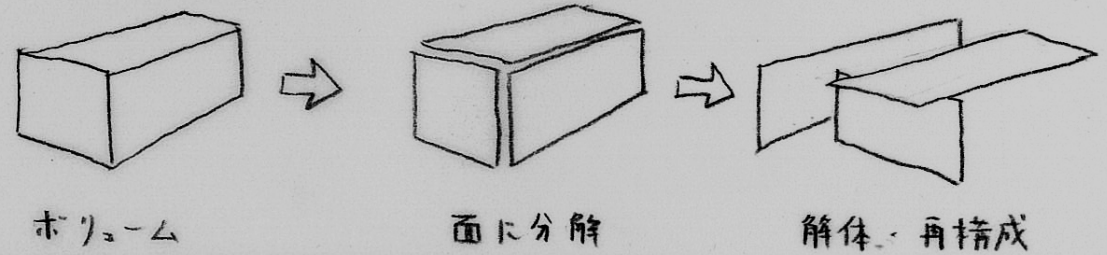


・白鶴氏の写真 → 「自然に対峙」  
同時に  
「自然に同調」 するようなイメージ。  
この予看(?)をどのように扱うか。

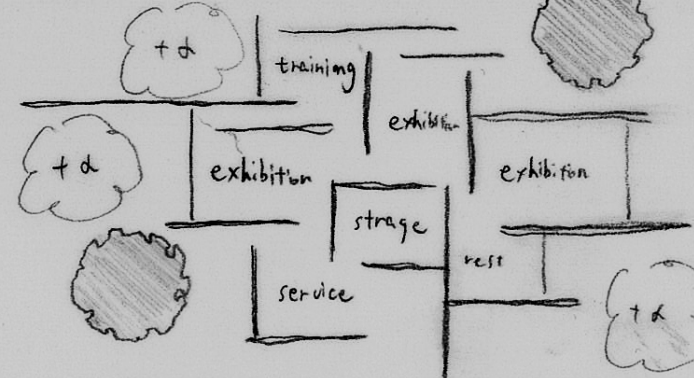


・写真 → 現象を切りとり、それを2次元に焼きつける。

スリット? → 老朽化した建築群を削し、  
風景、自然の面を切り取る面。



→ 風景を切断し、連続させる平面 → 面のリズム・シーケンス。



・自然の中では、原音をスリット  
によるものが異化される。  
・左図 +α のように、  
色々を便おれ方を、外構を  
含めて提案できる。

・白鶴氏の写真イメージと、  
統一感のない周囲との区別

大倉喜八郎  
記念館

12000

50000

35000

approach

resting place

exhibition 6

exhibition 4

exhibition 5

exhibition 3

strage

WC

service

WC

training

exhibition 1

exhibition 2

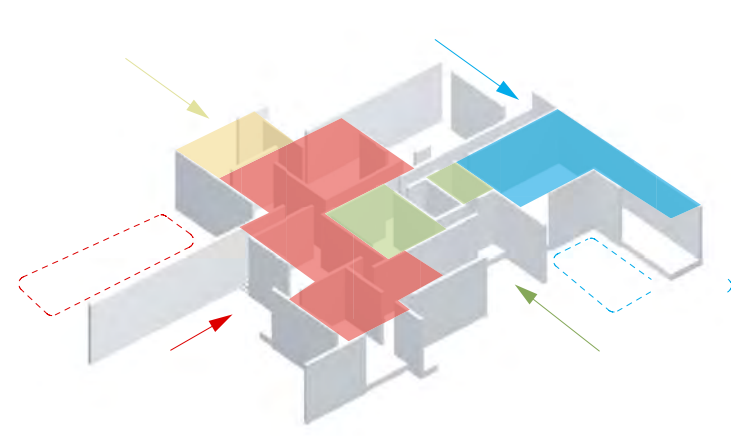


1FL plan S:1/200

TASEI CORPORATION 3年次デザイン研修 2007.01.23 | 02

□□□写真館

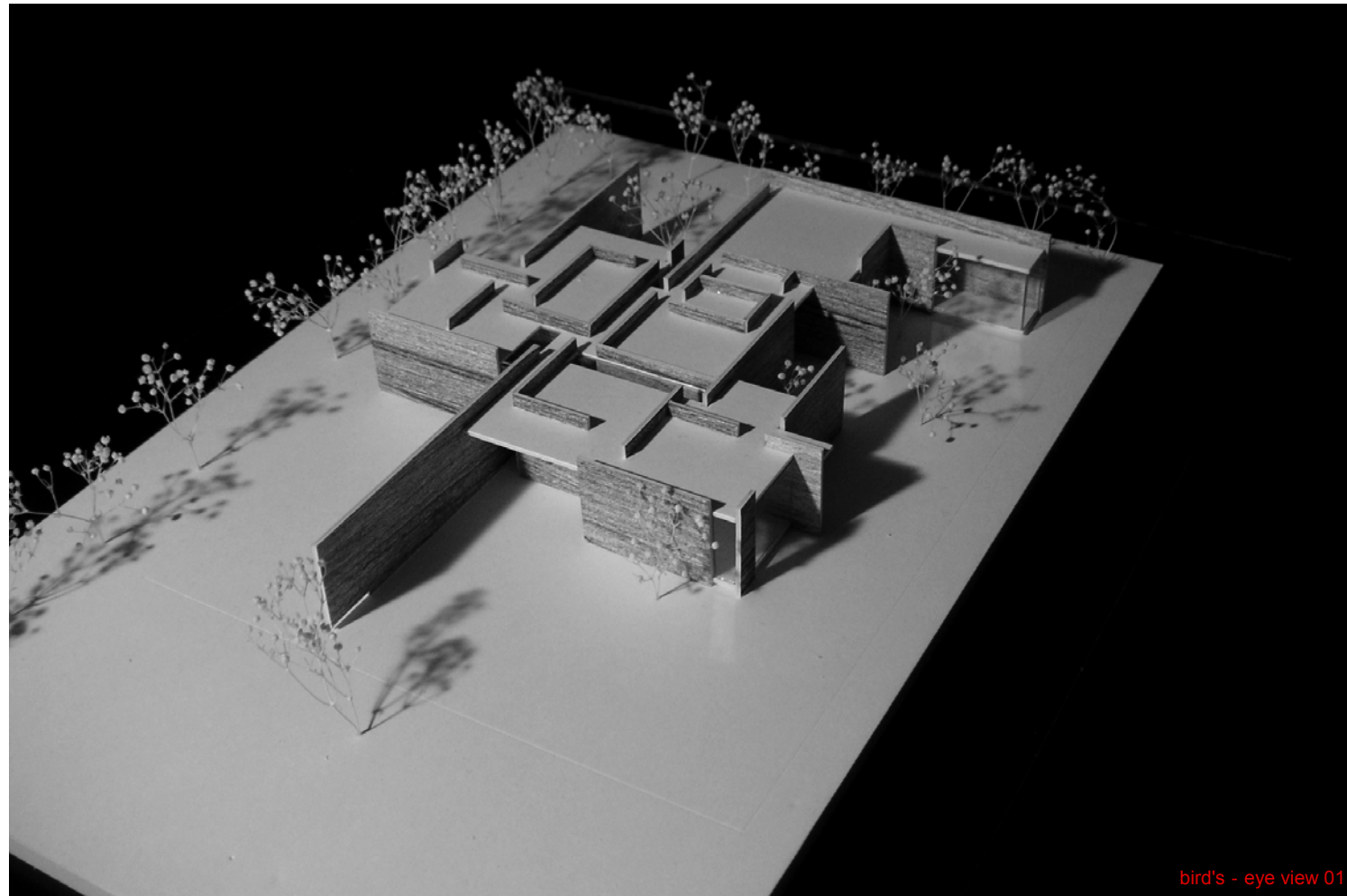




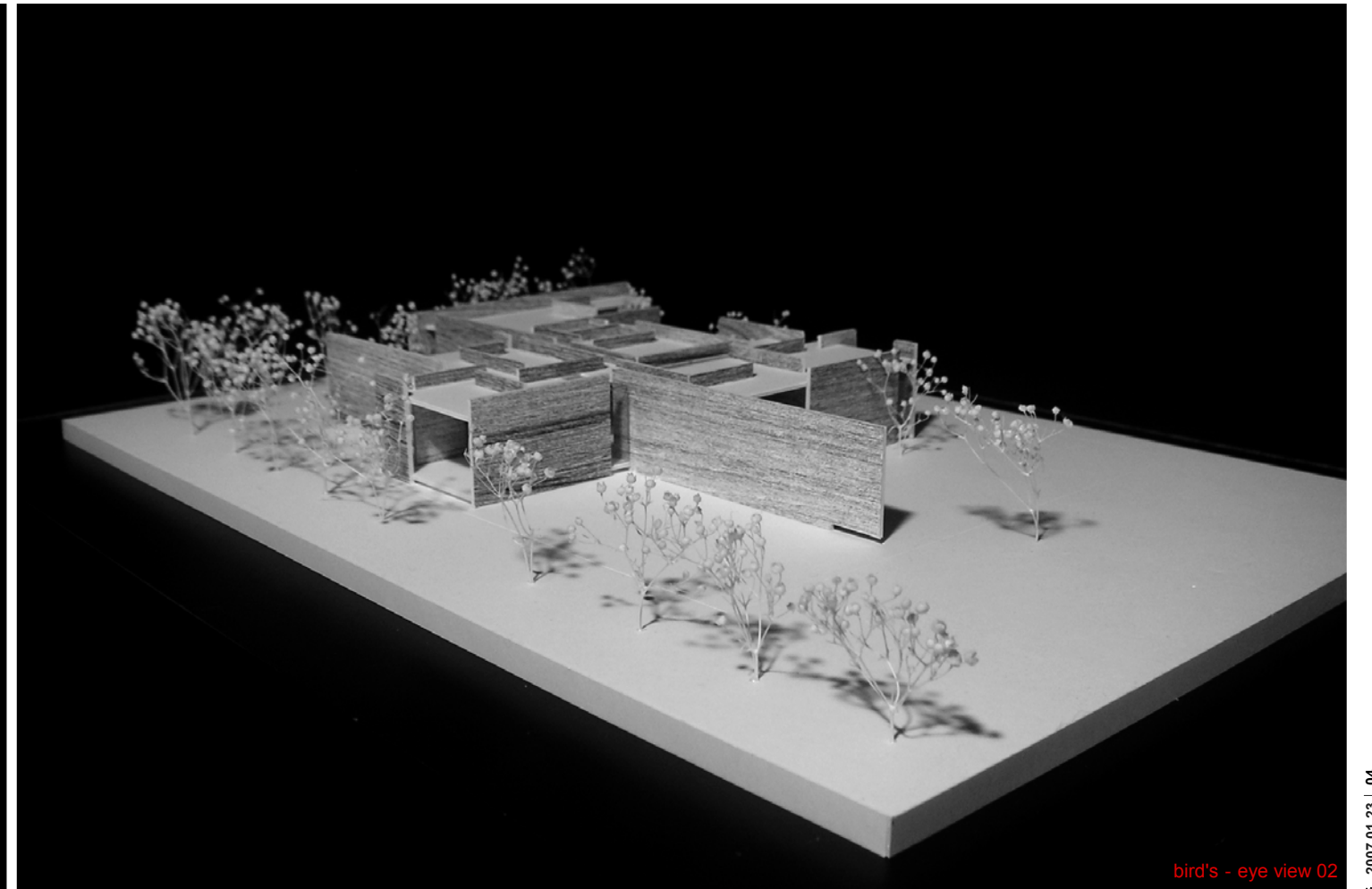
- |            |           |
|------------|-----------|
| — 写真館客用動線  | — 写真展示室   |
| — 研修室利用者動線 | — 研修室     |
| — 管理用動線    | — 管理室・収蔵庫 |
| — 館外利用者動線  | — 休憩所     |

それぞれの用途のための出入口を各立面方向に設け、写真鑑賞者と研修者動線が交わらないように検討している。  
 休憩所は展示経路の中間に位置しており、外部に開かれた場としている。周辺施設来場者と写真館を繋ぐ緩衝帯としての休憩所となっている。

また、左図点線部のように、本計画には多くの入り隅部が存在している。これは、それぞれの用途に近接して壁に半分囲われたような外部空間をつくることにより、施設が多目的な使われ方を許容できるように計画したものである。



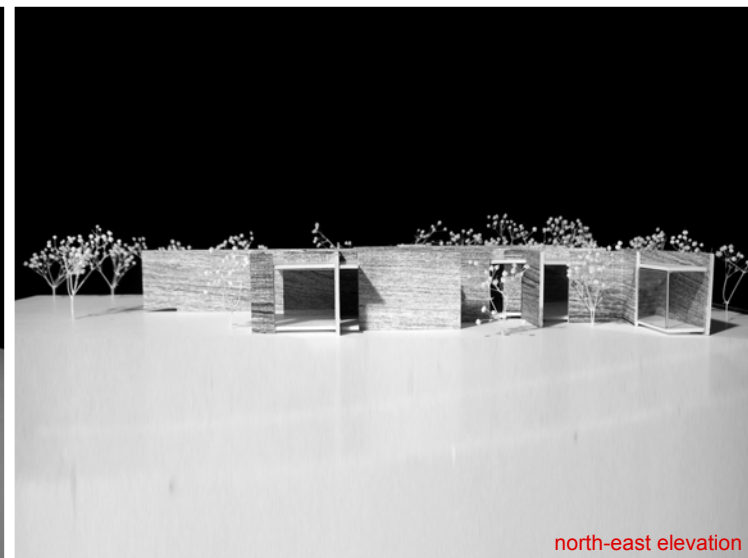
bird's - eye view 01



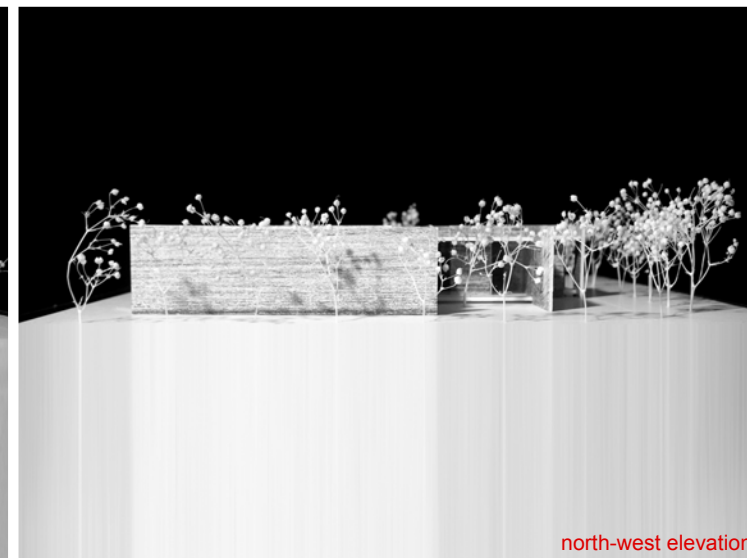
bird's - eye view 02



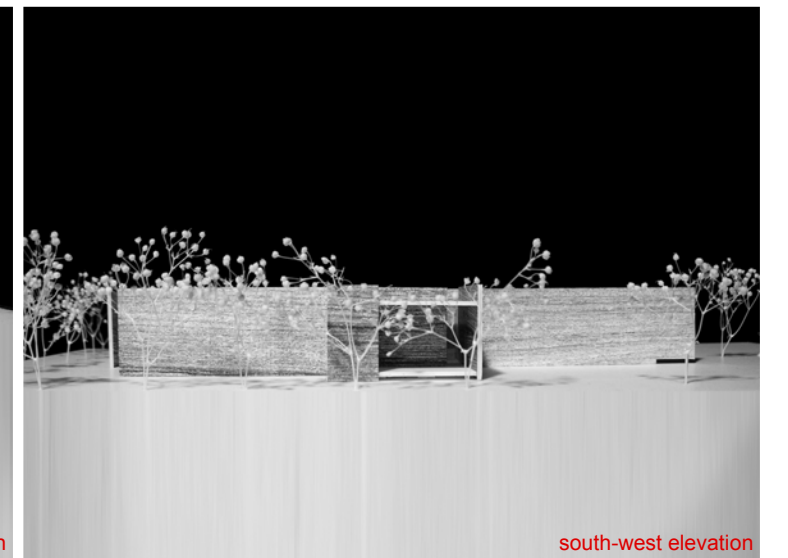
south-east elevation



north-east elevation

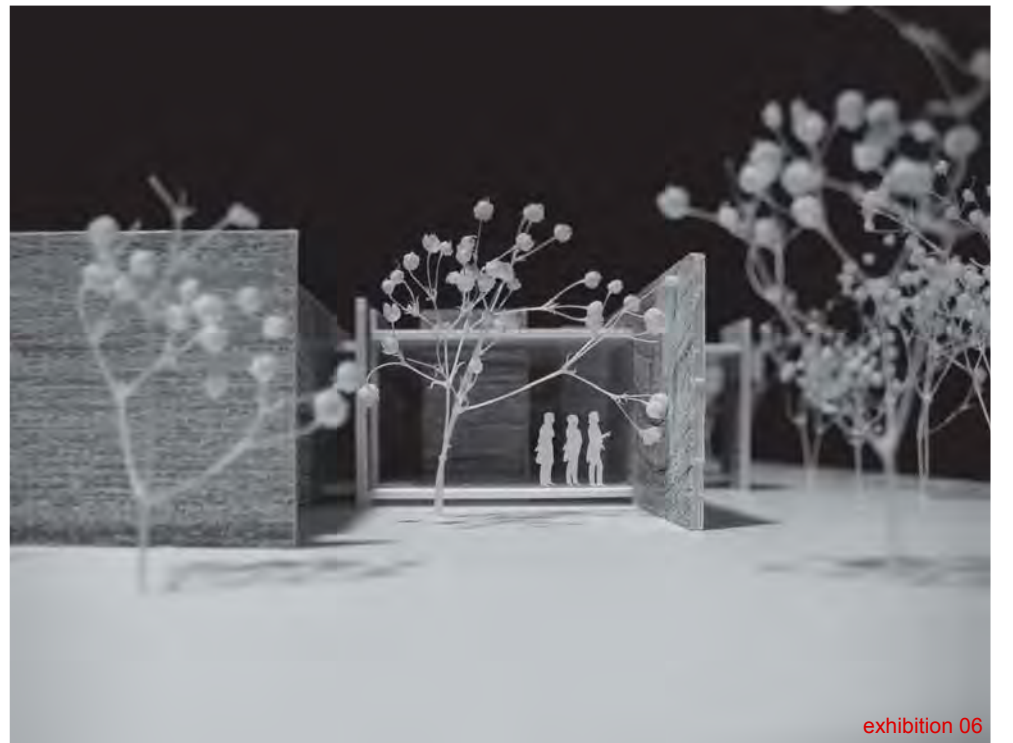
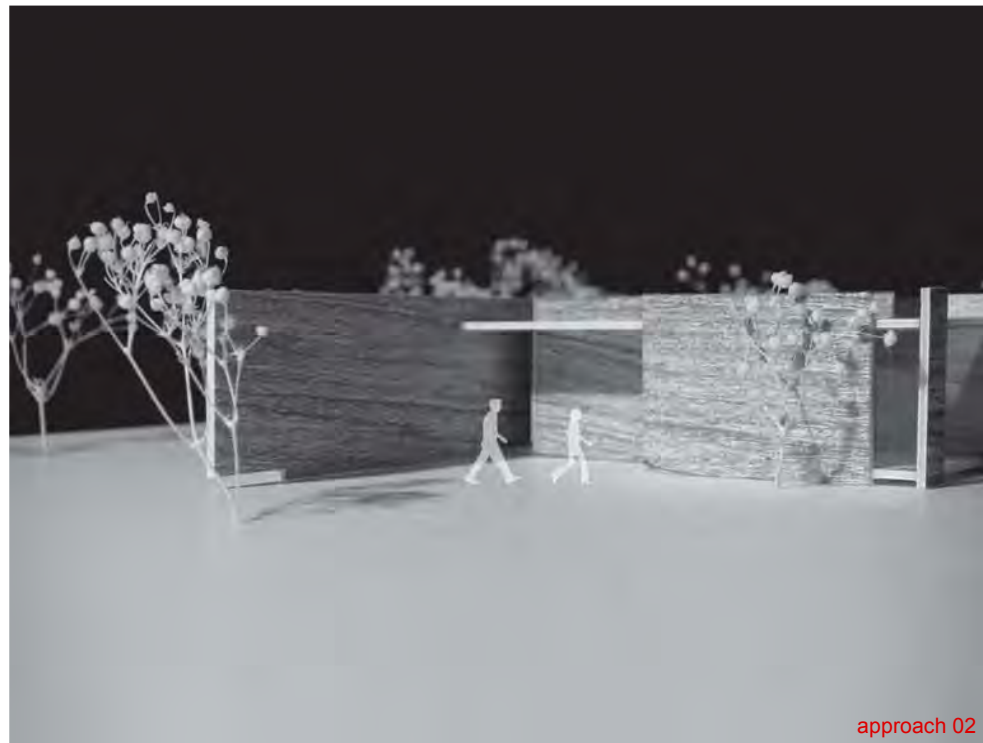


north-west elevation



south-west elevation





壁に2、3方向囲まれた外部空間が点在している。外部だけでも多様な使い方が出来る他、内外を繋いで機能を拡張することも可能になっている。

また、この面による考え方は計画地を含む樺島各所で適応可能である。これにより、樹木を保存しながらの開発が可能となる他、この構成がある種のデザインコードとなるため統一感を持った施設計画が可能となる。

